

1. 電照・盆出し作型に適する夏秋小ギク品種（技術）			
[要約] 夏秋小ギク品種のうち、暁の星、美風、むすめ、はじめ、くれない、きらり及びのぞみの 7 品種は、<u>電照</u>によって<u>盆出し</u>に利用できる。			
研究室名	野菜・花研究室	連絡先	0869-55-0277

[背景・ねらい]

電照による開花抑制効果は、夏秋小ギク品種間では大きく異なる。このため、電照栽培において、盆出し適期に開花し、切り花品質の高い品種を選定する。

[成果の概要・特徴]

1. 定植時から 6 月 10 日まで電照を行った場合、暁の星、美風、彦丸、むすめ、はじめ及びくれないは、平均開花日が 8 月 3 日～8 日になり、盆出しに適した。きらり及びのぞみは平均開花日が 8 月 11 日以降になり、盆出しにはやや遅かった(表 1)。
2. 電照栽培において、彦丸は半分以上の個体で 2～3 番花がブラインド（花芽の発達停止）したが、その他の品種はブラインドの発生がほとんどなかった(表 1)。
3. 彦丸以外の品種の電照栽培における花房の形状を見ると、美風及びくれないでは頂花の位置が著しく低くなる個体が増加したが、全体の 10%以下であり許容範囲内であった(図 3、図 4)。一方、暁の星では、頂花の位置が著しく低くなる個体が減少し(図 2)、むすめ、はじめ、きらり及びのぞみでは大きな影響はなかった。

以上の結果、夏秋小ギク品種のうち、暁の星、美風、むすめ、はじめ及びくれないが定植日から 6 月 10 日頃までの電照によって、きらり及びのぞみは電照打ち切りを 6 月 5 日頃にすることによって、盆出しに利用できると考えられる。

[成果の活用面・留意点]

1. 栽培場所や栽培年次によっては、開花日や切り花品質は多少変わると考えられる。
2. 挿し芽には老化した挿し穂の使用を避け、挿し芽期間中も電照を行うのが望ましい。

[具体的データ]

表1 電照の有無と夏秋小ギクの開花日及び切り花品質

品種	電照の有無	平均開花日 (月日)	同左標準 偏差 (日)	切り花長 (cm)	茎長 (cm)	側枝数	切花重 (g)	ブラインド率	
								頂花 (%)	1～3番 花(%)
暁の星	有	8/3	4.8	67	59	7	43	0	0
	無	7/27	4.3	61	49	6	44	0	0
美風	有	8/3	3.0	72	63	11	42	0	0
	無	7/16	3.2	47	37	8	23	0	0
彦丸	有	8/3	3.6	70	62	9	48	0	51
	無	7/20	3.4	58	46	7	48	0	0
むすめ	有	8/3	3.6	80	74	10	37	0	0
	無	7/28	5.7	70	64	9	47	0	0
はじめ	有	8/5	4.0	89	83	13	51	0	0
	無	7/17	6.1	63	52	9	43	0	0
くれない	有	8/8	2.5	76	66	8	41	0	3
	無	7/19	5.4	52	40	6	30	0	0
きらり	有	8/11	3.8	83	78	10	56	0	0
	無	7/19	2.7	52	46	7	36	0	0
のぞみ	有	8/12	3.2	99	93	9	51	0	0
	無	7/19	4.2	70	58	7	31	0	0

注) 挿し芽：4月5日、定植：4月26日、摘心：5月2日

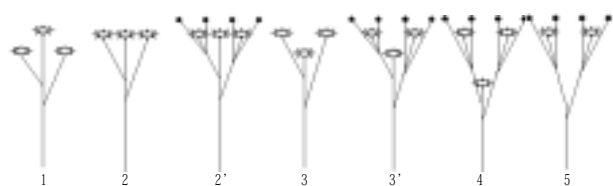


図1 花房の形状の分類

注：1～3' は出荷上問題なし。

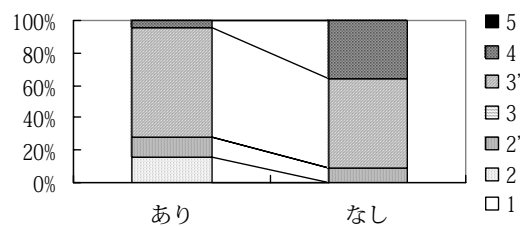


図2 電照の有無と'暁の星'の花房の形状

注：凡例；花房の形状分類は図1参照。

以下、図3、4も同じ。

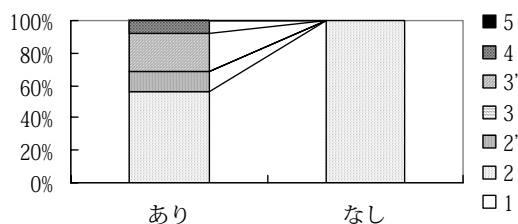


図3 電照の有無と'美風'の花房の形状

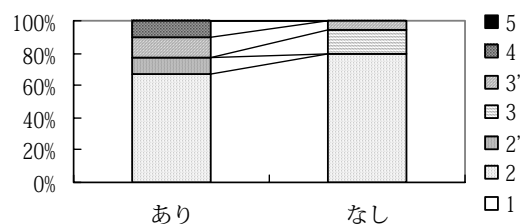


図4 電照の有無と'くれない'の花房の形状

[その他]

試験研究課題・事業名：盆・彼岸ピッタリ出荷による高付加価値小ギク生産のための精密開花調節法の確立・夏秋小ギクの電照栽培実証

予算区分：県単

研究期間：平成11～14年度

関連情報等：平成11年度試験研究主要成果「電照・盆出し作型に利用できる小ギク品種」